

2024年度四国学院大学 高大連携支援プログラム

- P.1～P.2 大学体験プログラム
P.3～P.4 合宿プログラム
P.5～P.6 PTA・教員研修プログラム
P.7～P.13 出張講義プログラム



四国学院大学
SHIKOKU GAKUIN UNIVERSITY

1. 大学体験プログラム

四国学院大学は、進路を考える高校生のみなさんにとって、大学での学びを知ることやキャンパスの雰囲気を感じていただくことは欠かせないことだと考えています。そこで、大学の講義体験や施設見学、大学概要ガイダンスなどを受けられるプログラムを用意しました。

ポイント

- ① 様々な分野の特化プログラムも実施可能
 - ・福祉、教育、スポーツ、心理学、保育、国際文化等に特化したプログラム
 - ・本学トススタジオで行われる演劇公演の観劇に合わせたプログラム
 - ・硬式野球部、サッカー部、陸上競技部に関連するプログラム
- ② 本学の送迎バスを利用可能
- ③ 学食体験可能 ※時期によって学食体験ができない場合もございます。
- ④ 参加者が少人数でも実施可能
- ⑤ 大学の講義体験やワークショップを総合型選抜に利用できます
※受験年度に受けた講義体験に限り、総合型選抜に利用できます。

プログラム例		
時間	スポーツ特化	演劇特化
10:00～10:30	大学の概要説明	大学の概要説明
10:30～11:30	講義体験(スポーツ関連)や 体組成測定	演劇ワークショップ
11:30～12:30	学食体験	学食体験
12:30～13:30	施設見学	施設見学や演劇稽古見学、 演劇公演観劇

お申し込み方法

お電話(0120-459-433)、申込フォーム(二次元バーコード)、もしくは「四国学院大学 大学体験プログラム申込書」(2ページ)に必要事項を記入してFAX(0877-63-5353)にてお送りください。

実施日の1ヵ月前までにお申し込みください。お申し込みの際は、実施希望日を第2希望までお伝えください。日程調整の上、後日ご担当者様に連絡いたします。日時やプログラム内容等につきましては、お気軽にご相談ください。



申込フォーム

このページをコピーしてご使用ください。

20 年 月 日

四国学院大学(FAX:0877-63-5353)行

四国学院大学 大学体験プログラム申込書

貴校名			
ご担当者氏名			
お役職	例:3年担任、進路担当等		
ご連絡先	TEL		MAIL
実施対象	現時点で確定されていない場合は、おおよその人数で構いません。 ()学年 約()名		
ご希望日時	第1希望	月 日 ()	: ~ :
	第2希望	月 日 ()	: ~ :
希望プログラム	希望するプログラムにすべて○をつけてください。 大学の概要説明 ・ 講義体験 ・ 施設見学 ・ 学食体験 その他()		
送迎バスの利用	該当するものに○をつけ、本学の送迎バスを利用しない場合は、交通手段をご記入頂き、車で来られる場合は車種(普通車、マイクロバス、大型バス等)と台数をご記入ください。 利用する ・ 利用しない(交通手段:)		
パンフレット等配布の可否	参加者に本学パンフレット等を配布することは可能でしょうか。		可 ・ 不可
アンケート実施の可否	施設利用後、アンケートを実施することは可能でしょうか。(個人情報の記載は任意)		可 ・ 不可
写真撮影の可否	本学ホームページ掲載または記録用に写真撮影することは可能でしょうか。(顔が写らないように配慮させていただきます。)		可 ・ 不可
ご要望・特記事項 (特に見学した施設や体験したい講義等がある場合、こちらにご記載ください。)			

※本学の都合により、プログラム等ご希望に添えない場合がございます。

お申し込みは電話でも受け付けております。お気軽にお問い合わせください。
お申し込みは、実施日の1ヵ月前までをお願いいたします。

【お申し込み・お問合せ先】

四国学院大学 入試課

〒765-8505 香川県善通寺市文京町三丁目2番1号

TEL:0120-459-433 FAX:0877-63-5353 MAIL:info@sg-u.ac.jp

2. 合宿プログラム

四国学院大学では、大学の施設を活用した合宿プログラムを提供しています。大学の行事あるいは学生の授業・クラブ活動に支障のない日時に、本学施設を無償で利用できます。宿泊施設は、本学キャンパス内の同窓会館ロゴス館を利用できます。(宿泊費、食費は別途必要)

長時間集中して勉強に取り組む体験を自分のものとする勉強合宿や、県内外から大学と練習しながらレベルアップを求める運動部の合宿などで施設を利用していただくことができます。

また、宿泊をせずに施設のみの利用も可能です。お気軽にご相談ください。

ポイント

- ① 施設の使用料無料
- ② 本学の送迎バスを利用可能
- ③ 宿泊施設の利用可能 ※宿泊費、食費は別途必要。
- ④ スポーツ、演劇等の合宿にも利用可能
- ⑤ 学食体験可能 ※時期によって学食体験ができない場合もございます。

お申込み方法

お電話(0120-459-433)、申込フォーム(二次元バーコード)、もしくは「四国学院大学 合宿プログラム申込書」(4ページ)に必要事項を記入してFAX(0877-63-5353)にてお送りください。

実施日の1ヵ月前までにお申し込みください。お申し込みの際は、実施希望日を第2希望までお伝えください。日程調整の上、後日ご担当者様に連絡いたします。



申込フォーム

四国学院大学 合宿プログラム申込書

貴校名				
ご担当者氏名				
お役職	例:3年担任、進路担当等			
ご連絡先	TEL		MAIL	
実施対象	現時点で確定されていない場合は、おおよその人数で構いません。 複数の高校での合同合宿の場合は、各学校の内訳を余白部分に記載頂けると幸いです。 ()学年 約()名			
ご希望日時	第1希望	月 日 ()	: ~	月 日 () :
	第2希望	月 日 ()	: ~	月 日 () :
使用目的				
使用を希望する施設				
宿泊	大学内の宿泊施設を利用されますか。			はい・いいえ
機材の使用	必要な機材がございましたら、○をつけてください。			プロジェクター・スクリーン・マイク
送迎バスの利用	該当するものに○をつけ、本学の送迎バスを利用しない場合は、交通手段をご記入頂き、車で来られる場合は車種(普通車、マイクロバス、大型バス等)と台数をご記入ください。 利用する ・ 利用しない (交通手段:)			
パンフレット等配布の可否	施設利用の際、本学パンフレット等を配布することは可能でしょうか。			可・不可
アンケート実施の可否	施設利用後、アンケートを実施することは可能でしょうか。(個人情報の記載は任意)			可・不可
ご要望・特記事項				

※本学教員の都合により、ご希望に添えない場合がございます。

お申し込みは電話でも受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

お申し込みは、実施日の1か月前までをお願いいたします。

【お申し込み・お問合せ先】

四国学院大学 入試課

〒765-8505 香川県善通寺市文京町三丁目2番1号

TEL:0120-459-433 FAX:0877-63-5353 MAIL:info@sg-u.ac.jp

3. PTA・教員研修プログラム

四国学院大学は、保護者や高校教員の方にも本学を知っていただくことで、高校生の進路選択や進路指導をより良いものにするために、本学の学びや大学の施設、キャンパスの雰囲気などを知る参考にして頂けると考えております。そこで、本学では高校生の方だけでなく、保護者や高校教員の方のみでの大学見学も実施しております。

ポイント

- ① 保護者または教員のみでの参加でも可能
- ② 本学の送迎バスを利用可能
- ③ 教育、福祉、スポーツなどに特化したプログラムも実施可能
- ④ 学食体験可能 ※時期によって学食体験ができない場合もございます。

プログラム例	
時間	プログラム
13:00~13:30	大学の概要説明
13:30~14:30	講義体験
14:30~15:00	施設見学

お申込み方法

お電話(0120-459-433)、申込フォーム(二次元バーコード)、「四国学院大学 PTA・教員研修申込書」(6ページ)に必要事項を記入してFAX(0877-63-5353)にてお送りください。

実施日の1ヵ月前までにお申し込みください。お申し込みの際は、実施希望日を第2希望までお伝えください。日程調整の上、後日ご担当者様に連絡いたします。



申込フォーム

四国学院大学 PTA・教員研修プログラム申込書

貴校名				
ご担当者氏名				
お役職	例:3年担任、進路担当等			
ご連絡先	TEL		MAIL	
実施対象	保護者 約()名 ・ 教員 約()名			
ご希望日時	第1希望	月 日 ()	:	~ :
	第2希望	月 日 ()	:	~ :
希望プログラム	大学の概要説明 ・ 施設見学 ・ その他()			
送迎バスの利用	該当するものに○をつけ、本学の送迎バスを利用しない場合は、交通手段をご記入頂き、車で来られる場合は車種(普通車、マイクロバス、大型バス等)と台数をご記入ください。 利用する ・ 利用しない(交通手段:)			
パンフレット等配布の可否	大学見学時、本学パンフレット等を配布することは可能でしょうか。			可 ・ 不可
アンケート実施の可否	施設利用後、アンケートを実施することは可能でしょうか。(個人情報の記載は任意)			可 ・ 不可
写真撮影の可否	本学ホームページ掲載または記録用に写真撮影することは可能でしょうか。(顔が写らないように配慮させていただきます。)			可 ・ 不可
ご要望・特記事項 (特に見学した施設や体験したい講義等がある場合、こちらにご記載ください。)				

※本学の都合により、プログラム等ご希望に添えない場合がございます。

お申し込みは電話でも受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

お申し込みは、実施日の1カ月前までをお願いいたします。

【お申し込み・お問合せ先】

四国学院大学 入試課

〒765-8505 香川県善通寺市文京町三丁目2番1号

TEL:0120-459-433 FAX:0877-63-5353 MAIL:info@sg-u.ac.jp

4. 出張講義プログラム

四国学院大学では、今自分たちが学んでいることが今後どのように活かせるのか、大学の講義はどのようなものなのかを知っていただき、進路について考える機会として出張講義をご案内しています。

本学教員が直接高校にお伺いし、講義を実施させていただきますので、“総合的な探究の時間”等でぜひご活用ください。

ポイント

- ① 講師料および講師交通費無料 ※一部の講義を除く
- ② 教育、福祉、スポーツ、国際文化、社会学、観光、地域歴史など多数のプログラムをご用意
- ③ 講義内容についてはご相談可能

以下の場合、お気軽にご相談ください。

- 希望する講義が決まらない。
⇒ご希望の「分野」を伺い、本学からご提案いたします。
- 出張講義プログラムにない授業を依頼したい。
⇒内容をお伺いし、類似のプログラムのご紹介や、希望の内容を講義できる教員の派遣を検討いたします。
- 講義の後(またはその前)に、大学の紹介をしてほしい。
⇒承ります。大学紹介のみの実施も可能です。

お申込み方法

お電話(0120-459-433)、申込フォーム(二次元バーコード)、「四国学院大学 出張講義申込書」(8ページ)に必要事項を記入してFAX(0877-63-5353)にてお送りください。

実施日の1ヵ月前までにお申し込みください。お申し込みの際は、実施希望日を第2希望までお伝えください。日程調整の上、後日ご担当者様に連絡いたします。



申込フォーム

四国学院大学 出張講義申込書

貴校名			
ご担当者氏名			
お役職	例:3年担任、進路担当等		
ご連絡先	TEL		MAIL
実施対象	()学年 約()名		
ご希望日時	第1希望	月 日 ()	: ~ :
	第2希望	月 日 ()	: ~ :
ご希望の講義	第1希望	教員名	
		講義名	
	第2希望	教員名	
		講義名	
機材使用の可否	使用可能な機材がございましたら、○をつけてください。 プロジェクター ・ スクリーン ・ PC		
パンフレット配布の可否	講義の前後に本学パンフレットを配布することは可能でしょうか。		可 ・ 不可
アンケート実施の可否	講義後にアンケートを実施することは可能でしょうか。(個人情報の記載は任意)		可 ・ 不可
ご要望・特記事項			

※本学教員の都合により、ご希望に添えない場合がございます。

お申し込みは電話でも受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

お申し込みは、実施日の1ヵ月前までをお願いいたします。

【お申し込み・お問合せ先】

四国学院大学 入試課

〒765-8505 香川県善通寺市文京町三丁目2番1号

TEL:0120-459-433 FAX:0877-63-5353 MAIL:info@sg-u.ac.jp

講師料、講師交通費は原則無償で提供しております。

文学部

講義名	講師名	講義内容
夏目漱石『こころ』について	教授/島 達夫	夏目漱石の『こころ』を取り上げ、なぜこの作品が名作かを明らかにしたいと思います。友情か恋愛かという図式的な理解では、はかり知ることのできない奥深さを『こころ』は秘めています。まさに人間の「心」の深淵を描き出した作品なのです。同時に本を「読む」とはどういうことかを考えたいと思います。
太宰治『走れメロス』の世界 -義人メロスの死と再生-	教授/丹羽 章	太宰治の『走れメロス』は、しばしば「愛と信頼の素晴らしさを歌い上げた明るく単純な作品」として紹介されます。確かに「明るい」のですが、決して「単純」な作品ではありません。「愛と信頼」は、事実、本当に可能なのか。「正義の人」メロスの挫折と再生のプロセスを追いつつ考えます。
日本語って不思議！	教授/齊藤 学	外国人に、「カ行・サ行には濁音(ガ行・ザ行)があるのに、ナ行・マ行にはどうして濁音がないの？」って聞かれたら何と答えますか？『あげる』はgive、『もらう』はget、『くれる』は何？』って聞かれたらどうでしょう？この講義では、私達がいつも何気なく話している日本語の不思議を共に探っていきます。
「東アジア史」から考える「日本人」と「日本文化」	教授/金 泰勲	「日本人」とは誰ですか。「日本文化」とは何ですか。自明なもののように思われるこの問いを「東アジア史」の観点から考えてみましょう。この講義では、文化や伝統の普遍と特殊の問題について、縦の時間軸と横の空間軸で眺めるアイデンティティの多様性という観点から学習します。
身近な地域を知る	准教授/金子 直樹	身近な地域について、その人文・自然的特徴を考えたいと思います。普段生活している場所の状態や成り立ちなどを確認し、社会科で学ぶ内容との関連性や地域の課題などについて知ってもらいたいです。具体的には、地域社会に関係する人口や産業など、自然災害に関わる地形や気候などの特徴について、地域に適した内容を紹介していきます。
愉快的翻訳論	教授/赤井 勝哉	”Yes,captain!”この簡単な英文を日本語に訳せますか？「はい、船長」？「了解、機長」？「いいわよ、キャプテン」かもしれませんよ。「へい、ダンナ」の可能性もあるし、「違うぞ、大佐」もないとは言えない。訳文は前後関係(文脈)の中でしか決められないものです。文脈の大切さを中心に翻訳について愉快地に語ります。
大学での英語の講義を体験してみよう	教授/中澤 加代	大学の英語の授業は高校以上に難しいのでしょうか、それとも楽しいのでしょうか。実践的な英語力・コミュニケーション能力を身につけることを目指している大学の英語の授業をぜひ体験してみてください。
音読で学ぶ英詩の世界 -ロバート・フロストと W.H.オーデンの詩を通して-	教授/太田 真理	詩歌は詩人の激しい思いが短い文の中にぎゅっと詰まった言葉の宝石箱のようです。みなさんがいくつかの短歌や俳句を誦(そら)んじているように、英語圏の人々もみんな知っているような詩があります。この講義では、そのような有名な詩を、気持ちを込めて声に出して読みあげることにより、英詩のリズムや言葉の響きを楽しみながら、比喩や象徴的な表現を味わってみましょう。
The Power of Vocabulary	助教/ エセックス マイケル	Although many English language students focus on learning English grammar, vocabulary is even more important for many different language purposes. How much vocabulary is necessary for doing various things in English? It's probably less than you think! This class will focus on the usefulness of vocabulary and vocabulary learning strategies. If there is time, we will finish with a vocabulary game.
市民がつくる平和条約 —映像で学ぶ戦争と平和—	教授/井上 雅義	画期的な国際条約の締結に成功した例を取り上げてケーススタディを行います。1997年に国連の「対人地雷全面禁止条約(オタワ条約)」が締結されました。この条約は世界各国のNGO(市民団体)が連携することで実現しました。主要国が自国の利益を主張するため地雷撤廃の交渉が進みませんでした。しかし、「国益よりも人類の利益」を優先するNGOの説得が実を結んだかたちです。この交渉過程を「オタワ・プロセス」と呼び、その後のクラスター爆弾禁止条約や核兵器禁止条約など成果を上げています。一方、米、露、中国はいまだ条約に加盟していません。平和条約の背後に戦争をめぐる根深い問題が潜んでいます。パレスチナやウクライナ戦争の構造的問題を探り、平和構築の方法論を学修します。 【使用機器】プロジェクター、スピーカー

講義名	講師名	講義内容
文学が培う宗教リテラシー／ 宗教的センス	准教授/ ネルソン ジョシュア	宗教リテラシー／宗教的センスとは何か。現代社会で生き抜くために必要な感性です。宗教との向き合い方や信仰を持つ人たちがどう関わるかについて考える力を身につけていくことを目的としています。本講義では、戦後に活躍したカトリック作家の遠藤周作の作品群を取り上げます。『沈黙』や『深い河』などの代表作が扱う諸課題を通して、知識だけでは説明がつかない「宗教」の謎・おもしろさに気づくことができるかもしれません。 【使用機器】(パワーポイント使用)PC、プロジェクター
教育現場における心理学の 必要性	教授/大木 祐治	教育というのは、教科目について深い専門的知識があるというだけでは、決してうまくいきません。児童や生徒の個々の特徴や在り方をよく理解しなければ、教育は成り立たないのです。そのために、心理学が必要となってくるのです。この講義では、教育現場において、心理学が貢献できる内容について学んでいきます。
色彩の世界	教授/松村 武夫	造形芸術の基本的な要素である「色」は、幼稚園や小学校における造形教育においても基本的で重要な要素となります。本講義では、身近な物品を例にして様々な配色の効果やその表情を紹介し、「色」についての理解を深めます。
教員養成の仕組み	教授/元井 一郎	現在の教育職員免許法の構成を中心に、教員免許制度の構造あるいは教員免許状の種類などを簡潔に解説します。また、併せて現在の教員採用の構造や特徴、および現在求められている教員像などについても簡単にお話しします。
どうして勉強するのか？	教授/六車 治	「なぜ、こんな役に立ちそうもない知識を覚えるのか？」「どうしてだれもが勉強しなければいけないのか？」だれもが一度は抱く学校や勉強への疑問に対し、教育学の視点で考察します。あわせて、これからの新しい時代を生きるための勉強の仕方をみんなで考えてみましょう。
グループ学習で重要なこと —文化歴史的活動理論から考える—	教授/森川 由美	AIに代替されない仕事の特徴として、人間同士でコミュニケーションをとりながら協同で進めることを挙げることができます。そのため、そうした力を伸ばすために、学校の授業でもグループ学習が増えてきています。そこで、グループ学習において重要なことを、文化歴史的理論を用いてみていきましょう。
天文学で触れるプログラミング	准教授/清水 一紘	天文学というと、望遠鏡を使って宇宙を観測するイメージを抱く人が多いかもしれません。しかし、天文学では、プログラミングを使って宇宙を紐解く分野もあります。この講義では、美しい宇宙銀河の写真を見ながら、それをプログラミングでシミュレートするとどうなるのかを動画を使って示しながら、天文学の世界を紹介します。 【使用機器】(パワーポイント使用)PC、プロジェクター

社会福祉学部

講義名	講師名	講義内容
地域福祉を考える	教授/石井 洗二	いま、地域福祉への関心、期待が高まっています。この講義では、地域福祉とは何か、なぜいま注目されているのか、私たちにできることは何か、などについて、自分たちが暮らしている地域の課題として、一緒に考えてみたいと思います。
私たちの暮らしと社会保障	教授/李 静淑	公的年金は、老後だけでなく、若い時にも受け取ることができます。ホント！？と、疑問に思うかもしれません。このように、社会保障は高齢者だけが関係するものではなく、全ての国民が対象となっています。そこで、「私たちの暮らしと社会保障」というテーマで一緒に考えてみましょう。
北欧フィンランドの社会福祉と日本	教授/片岡 信之	北欧のフィンランドは福祉先進国として知られていますが、その意味は福祉制度だけを見てもわかりません。社会福祉制度は、あくまで家族・政治・文化などを含めた社会全体の一環としてあります。フィンランドの社会福祉現場を訪ねた際の写真を交えながら、日本と比較しつつ、高福祉を可能にしている社会の仕組みを解き明かします。
心のセルフケア	教授/山口 孔丹子	心の健康を保つためには、筋弛緩法、呼吸法、リラクゼーションなど様々な方法があります。講義では、そのうちのいくつかの方法を体験します。また、心の健康のために大切な要素についてディスカッションをして、ともに学びましょう。
公認心理師資格と大学・大学院教育	教授/会沢 勲	公認心理師は2017年に施行された法による心理職としては初の国の資格です。かなり新しい資格ですが、すでに文部科学省のスクールカウンセラー任用条件の1番目に挙げられています。今後その仕事の範囲・内容は広がっていくことが期待されます。本講義では、大学・大学院で求められる公認心理師の学修について、簡単に解説したいと思います。
対人援助技術を学ぶ	教授/西谷 清美	イギリスの慈善活動からはじまり、アメリカにおいて体系化されたソーシャルワーク(個別相談援助)を概観しながら、主に援助者の視点や価値観、具体的な援助技法等について、実践例を用いて分かりやすく解説します。
子どもを虐待から守るためにできること	准教授/北川 裕美子	みなさんが将来親になった時、育児に関わることになった時、どのように子どもとかかわれば良いのか？実際に地域で保護者や支援者に実践されている親子関係支援プログラムを体験し、子どもたちを虐待から守るためにできることは何か考えます。 【使用機器】(パワーポイント使用)PC、プロジェクター、DVD
かかわりを紐解く —援助・支援の仕組みと考え方—	教授/富島 喜揮	精神障害者への援助・支援をベースに、多くの領域で活用できる人との関係の持ち方を分かり易く紐解きます。
共生社会の実現を目指して	教授/西谷 清美	年齢や性別、属性や背景に関係なく、誰もが自分らしく、ともに安心して暮らせる社会の実現のために、社会福祉が果たす役割や方法、またその視点について考えます。
「子どもの権利」として 位置づけられる課題を考える ～子ども福祉を学ぶ意義～	教授/野崎 晃広	皆さんは、子どもの権利条約をご存じでしょうか。子どもの権利条約は、国連により1989年に採択され、日本は1994年に、この条約を批准しました。子どもの権利条約で言う子どもの権利とは、子どもとして生きる皆さん(18歳未満)にとって、どのような意義をもたらしているのでしょうか。現在18歳未満である子どもや若者である皆さんにとって、自らを取り巻く生活上の問題の中には、子どもの権利として位置づけられるべき問題が横たわっています。 一方で、子どもの存在を守る立場にあるのは、家庭をはじめ地域で暮らすすべての人々であり、子どもに携わる専門職者(福祉、教育、医療等)などもあります。子どもの存在を守る大人は、どのような役割を担うことが求められているのでしょうか。この講義では、権利の保有者である子どもとしての立場、今後大人として生きる若者としての立場、それぞれの立場について、社会の一員として、考えるべき課題を学んでいただきます。具体的には、全体学習後に、グループに分かれて、課題に基づきディスカッション、発表などを通じて学ぶ機会を提供します。なお、学校や学年などの状況に応じてアレンジも致します。
スクールソーシャルワーク ～学校で子どもを支援するために～	教授/浜田 知美	現在の学校には、不登校、いじめ、非行、リストカット等、様々な形で支援を必要としている子どもがいます。スクールソーシャルワークとは簡単に言うと、学校のなかで様々な困難に直面している子どもたちを、子どもたちの側に立って福祉の視点で支える活動です。その特徴について事例を用いながらわかりやすく説明します。

社会学部

講義名	講師名	講義内容
アウトドア系社会学 ～社会調査とフィールドワーク～	教授/関 泰子	社会学って何？って思う方へ。社会学を支える社会調査とフィールドワークについて説明します。社会調査とフィールドワークのノウハウは社会学だけではなく、他の学問領域にも応用可能。また、社会に出てからも社会人生活を支援し助ける色々なヒントが詰まっています。
ソーシャルキャピタルからみる 現代社会の変容	教授/竹本 達也	人間関係資本なども称される様々な様態の「つながり」にスポットを当て、その社会的意味や歴史的変遷を概観しつつ、私たちが生きている社会の実情をひもといていきます。
学力が低いのは努力不足のせい？ —学力を社会的視点から見る—	教授/尾場瀬 一郎	これまで学力は、努力の量と比例すると考えられてきた/考えられている。ところが社会的には、子どもの学力は家庭の経済力や文化的環境とより強い相関関係があることがわかっています。今回、子どもの学力が家庭の経済力等どのように繋がっているのか、データを基にして考えてみましょう。
メディアを学問する	准教授/福永 健一	私たちの身の回りには、多種多様なメディアがあります。それらのメディアは、いつからあって、なぜそのような様態として存在しているのでしょうか。また、メディアは私たちの生活様式や考え方をどのように規定しているのでしょうか。この講義では、メディアについて、社会学やメディア論という学問から考えていきます。
「推し」が意味	助教/板倉 享平	誰にでも何か「推し」があり、何かのファンです。わたしたちは日常的にSNSなどで「推し」について感想を見たり、言ったりしています。このような行為にはどのような「意味」があるのでしょうか。私達が日々触れる文化について考えながら、大学で行う「学び」や「研究」とは何かを一緒に考えます。
テキストとして新聞記事をよむ	教授/竹本 達也	典型的な活字媒体である新聞は、ネットやSNSが普及した今日なお重要な社会的位置を占めています。しかしながら、いわゆる「活字離れ」といわれる現象の中でその位置が大きく変わりつつあるようにも思えます。そこでこの機会に、ごく基本的な読解の技法をいくつかみていきたいと思います。
そもそもスポーツとは？ これからのスポーツは？	教授/逢坂 十美	スポーツは今や私たちの生活のあらゆる場面、媒体を通じて登場します。オリンピック、ワールドカップのようなチャンピオン・スポーツはもちろん、日常生活のなかで行われるレクリエーション的なものまで、スポーツの楽しみは私たちの生活を彩ってくれるものとなりました。野球やサッカー、バレーボール、陸上競技など、いわゆる近代に発展したスポーツのほか、現在ではElectric Sportsも「スポーツ」とする捉え方も出てきました。ですがそもそもスポーツとは何でしょう。またこれからスポーツはどのように変わっていくのでしょうか。この授業ではスポーツについて「ある問い」から出発し、今後のスポーツの姿を想像してみたいと思います。
フード・ツーリズム	准教授/山中 雅大	日本における観光やレジャーの発展には「食文化」や「食環境」の繁栄が背景にあります。本講義では、「外食」の変化や受容の変遷を視点として、どのように「食の旅=フード・ツーリズム」が誕生し現在に至ったのかを、かいつまんでご紹介します。
発想力開発論	教授/田尾 和俊	「私はアイデアが出ない」「発想力がない」と言う人がたくさんいますが、世の中のアイデアや発想のほとんどは天性の才能が生み出すものではありません。この講義では、アイデアを生み出すための初歩の手法をたくさん紹介します。その「入り口」を知れば、あとは練習を積むことで発想力や創造力はどんどん身に付いていきます。
文系のための「平均」講座	助教/板倉 享平	私たちの生活は数字に囲まれています。テストの点数や、ライブのチケット代、明日の降水確率…。しかし、我々は身の回りの数字の「意味」をきちんと理解しているのでしょうか。本講義では「平均」を中心に、文系にもわかる統計学を学びながら、大学での「数字」と「研究」の重要性を考えます。
なるほど！スポーツトレーニング	教授/片山 昭彦	みなさんが日ごろから取り組まれているスポーツトレーニング。なにげなく行っているストレッチングにも大切な意味があります。そんなスポーツトレーニングの世界を、探ってみたいと思います。ひょっとすると、スポーツパフォーマンスアップにつながるヒントを、見つけ出せるかもしれません。面白く、楽しく、いっしょに学んでいきましょう。そして、健康・スポーツ科学分野により興味を持ってください。
スポーツ文化論	教授/近藤 剛	スポーツはいいもの！スポーツは素晴らしい！スポーツしている人はイケてる！！スポーツに興味・関心がある高校生の多くは、スポーツに対してこのような感情を持っているのではないのでしょうか。でも、それは本当ですか？体罰、暴力、セクハラ・猥褻、いじめ、傷害、障害・死亡、裏金、学力低下…。実はスポーツは、今もなお多くの問題を抱えています。こうした問題を抱えてしまう背景と日本のスポーツ文化について考えてみましょう。

演劇ワークショップ

四国学院大学では、感受性や表現力を磨き、社会に通じるコミュニケーション能力を伸ばすために、演劇の手法を用いたワークショップ形式の講義を実施しています。

本学学生はこの講義を通して、プロの俳優を目指すだけでなく、**教員や保育士、社会福祉士を目指す学生にとっても必要なコミュニケーション力を高めています。**

また、一般企業の就職を考えている学生も、面接や社会に出てから役立つ表現力を磨いています。高校生の皆様にもこのような講義を体験して頂き、感受性や表現力を身につける一助になればと考えております。

具体的な内容や費用につきましてはご相談に応じますので、お気軽にお問い合わせください。

講義名	講師名	講義内容
演劇から学ぶコミュニケーション	准教授/西村 和宏	小グループに分かれ、短いシーンをグループ創作します。その話し合いでお互いの意見が違うことや自分のイメージを伝えることの難しさを体感します。「言いたいことが上手く伝わらない」そこから人は他者とコミュニケーションをとる努力をするのだと思います。演劇を通して、対話とは何かを考え、学べる体感型の講義です。
即興演劇を活用した表現する力を育てるワークショップ	准教授/仙石 桂子	即興演劇とは、脚本も、設定も、役も何も決まっていな中で、その場に出てきたアイデアを受け容れ合い、ふくらましながら、物語をつくり、場面を演じながらシーンをつくっていく演劇です。即興演劇の基本方針は、「自由と協調」。即興演劇を体験することで、自由な創造力と、相手と協調することを学びます。
実習におけるコミュニケーション技術を活用したワークショップ	准教授/仙石 桂子	福祉科での実習に行く前に身につけておきたいこと、行った後の課題について、コミュニケーション技術を基にロールプレイングを活用したワークショップを行います。演劇の専門家として、利用者、実習生、職員の立場に寄り添い、アドバイスをします。
動きの中で学ぶこと	教授/阪本 麻郁	高度に進展したITによってヴァーチャルな世界が拡大した現代に生きる若者たちに、コンテンポラリー・ダンスという生身の身体を使った芸術を通して、身体感覚やコミュニケーション能力を回復させる講義です。芸術を活用した講義を行うことで、自信が養われ、批評的な思考力や規律を重んじる姿勢が生まれます。

【お問い合わせ先】

四国学院大学 入試課

〒765-8505 香川県善通寺市文京町三丁目2番1号

TEL:0120-459-433/0877-62-3964(入試課直通)

FAX:0877-63-5353

MAIL:info@sg-u.ac.jp

